ルーペと双眼実体顕微鏡の使い分け

観察する物の大きさや状態によって、ルーペと双眼実体顕微鏡をどう使い分けるのだろう

ルーペ





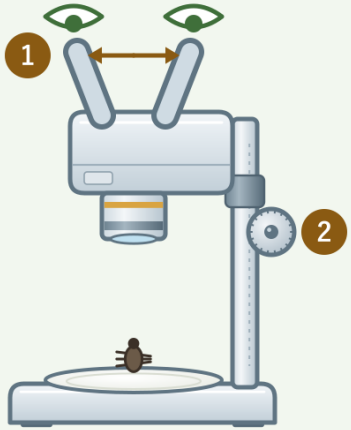
見る物を前後に動かす

目に近づけて持つ。
動かせない物は、顔を前後に動かす。

手に持って、野外でも使える。
見る物はそのまま（倍率は数倍〜10倍くらい）。

！ルーペで太陽を見ない（目をいためる）

双眼実体顕微鏡



① 接眼レンズの間を両目の幅に合わせ、左右の視野を1つに重ねる。

② 調節ねじを回して、ピントを合わせる。

両目で見るので、立体的に見える。
物をそのままのせる（プレパラートはいらない）。

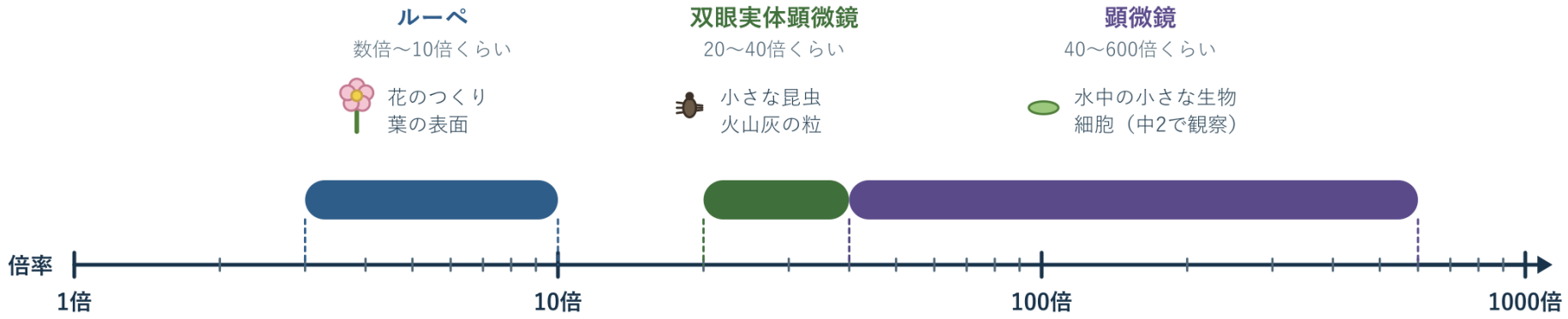
選ぶ手がかり

そのまま、野外で手軽に見たい
↘ **ルーペ**

そのままの形を、立体的にくわしく
↘ **双眼実体顕微鏡**

うすくした物やとても小さな物を
↘ **顕微鏡**

倍率の目安と、向いている物（見る物が小さいほど、高い倍率の道具を選ぶ）



※ 模式図。倍率は目安で、道具によって違う。器具の形は製品で違う。完全な操作手順ではない。授業では先生の指示で確かめる。